事例No.	2146
公表年度	R4
団体の属性	指定都市
団体名	福岡県北九州市

事例区分	DX

タグ	・福祉・介護 ・人材確保・育成 ・ICT

事例種類	デジタルデバイド対策

事例内容・タイトル

障害者に対するデジタル活用支援の担い手となる人材の養成・派遣

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

166 障害者に対するデジタル活用支援の担い手となる人材の養成・派遣【福岡県北九州市】

事業の概要

○ 北九州市では、障害者の社会参加や自立支援を促進するため、障害者パソコンサポーター養成・派遣事業を実施している。

○ 「障害者パソコンサポーター」は、パソコンやその周辺機器の使用方法等について支援を必要とする障害のある人や団体に対し、支援をする者である。令和３年度は7名を養成し、登録者数は87名となっている。養成においては、カリキュラムが定められており、障害理解や障害のある人への接し方等が多く組み込まれている。

○ 支援は、障害のある人の自宅へのサポーター派遣や、電話相談等により実施している。また、障害者団体主催のパソコン講習会へ講師として派遣している。令和３年度は、コロナ禍の影響もあり、年250回程度であったが、コロナ禍以前は、年500回程度の派遣実績があった。



【参考情報①】 人口：92.6万人
関連URL：https://www.city.kitakyushu.lg.jp/shisei/menu05_0100.html

【参考情報②】地域生活支援事業費等補助金（厚労省）とは
URL：https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/chiiki/gaiyo.html

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）

「どんなパソコンを買ったら使いやすいか分からない」、「目が見えないけどパソコンは使えるのだろうか」といった、障害のある方からの声に答えるために、平成14年10月25日から事業を開始しました。（北九州市）



住民の反応（声）はいかがですか？

「パソコンの使用を諦めていたが、自分でメールを打てるようになった」、「パソコンが使用できるようになり、就職に繋がった」などの声をいただいています。



これから事業を考えている自治体に向け、一言お願いします。

最近では、パソコンよりも気軽に利用できるスマートフォンやタブレット端末の使用に関する派遣依頼が増えてきています。事業を実施する上では、障害のある人が、どのような支援を求めているのか、常にニーズを意識することが重要であると思います。

★担当：北九州市保健福祉局障害福祉部 障害福祉企画課★

令和3年度事業費　4,432千円
（うち、地域生活支援事業費等補助金（厚労省）
国：2,216千円、県：1,108千円）